

ネタニアフ首相が米国議会で演説

ユダヤ系平和組織が座り込み抗議行動

インターネット配信ニュース「デモクラシィ・ナウ」から

ネタニアフ演説にユダヤ系アメリカ人が抗議行動

イスラエルのベンヤミン・ネタニアフ首相が7月24日、米議会上下両院の合同会議で演説した。パレスチナのガザ地区で、イスラエル軍の攻撃によって一般市民の犠牲が4万人に迫り、国連国際刑事裁判所 (ICC) の検察官が、ネタニアフ首相らイスラエル閣僚と、イスラム組織ハマスの指導者に、戦争犯罪容疑で逮捕状を請求しているなかでの、ネタニアフ招請に対して強い批判の声が上がった。

アメリカのインターネット配信ニュースの「デモクラシィ・ナウ」は、ガザにおける戦闘状況を詳しく報じている。ネタニアフ首相の演説直後の7月25日の配信ニュース「100名以上の議員がネタニアフの演説を欠席」では「カマラ・ハリス副大統領はじめ100名以上の民主党議員が演説時に欠席する一方で、列席した議員はネタニアフのゆがめられた報告に、立ち上がって喝采を与えた」と報じている。(記事リンク [Over 100 Lawmakers Skip Netanyahu's Address to Congress Amid Protest over U.S. Support for War in Gaza](#))

同記事はさらに、ネタニアフ演説は停戦に向けての努力や、16000人以上の子どもの殺戮したイスラエル軍の暴行には触れることがなかったと付け加えている。

7月24日の配信記事「ユダヤ系の運動家もパレスチナ系活動家もネタニアフの議会演説に抗議400名が逮捕される」では、ネタニアフ首相の演説に先立って連邦議会議事堂で行われた抗議行動の様子を紹介。この抗議行動は「平和を求めるユダヤ人の声」(Jewish Voice for Peace) が呼びかけ、国会での座り込みが行われた。

同記事は、「数10人の Rabbis (ユダヤ教の宗教指導者) を含む400名のユダヤ人活動家が逮捕された」と報じ、ネタニアフに抗議して行動に参加したユダヤ人活動家の声を紹介している。

このユダヤ人活動家は、いとこの友人が昨年の10月7日のフェスティバル会場で人質となっていて安否が不明だと訴え、友人の安否を懸念しつつ、この戦争はガザに住む人々、パレスチナ人に対する大量虐殺戦争だと批判。

そして、自らを「パレスチナ系ユダヤ人」だと紹介して家族の歴史を以下のように説明している。

イスラエル建国以前はユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒の三者が平和に共存

『パレスチナ系ユダヤ人』というのは、イスラエルが建国される以前からパレスチナに住んでいたユダヤ人で、おそらく全体の1~2%だった。

私の家族はパレスチナの地に、イスラエルが建国される数百年以前から住んでいた。私たちパレスチナに住むユダヤ人家族はアラビア語を話し、イスラム教徒やキリスト教徒と一つのコミュニティの中でパレスチナ人として一緒に生活してきた。

1948年のイスラエル国家確立の時期に、祖母、大祖父、大祖母がお互いに支え合ってきた友人であり、同僚であり、仲間だった人々(非ユダヤ教徒)が、住む場所から強制移転させられた。彼らは自らの家、隣人、信頼し合った友人から引き離され強制的に移動させられた。

私の大祖父は1948年の後に、親しくしていたキリスト教徒のパレスチナ人やイスラム教徒のパレスチナ人をエルサレムに連れ戻すために疲れを知らずに働いたが、かなわなかったと私に話してくれた。

今日のガザへの絶え間ない砲撃、饑饉のエスカレート、ウイルスの攪拌、(ヨルダン川) 西岸の避難民に対する暴力に対して、私は人として無関係とは思えないし責任を感じる。なぜなら、アラブ・イスラム系のパレスチナ人も、キリスト教信者の家族とその子孫も、私たちユダヤ人の家族を何世代にもわたり守ってくれたのであり、その人々が今、虐殺されているのです。

彼らは、私の祖母や大祖父、大祖母の友人であり隣人でありお互いを守り経済的利益を共有し公正で平等であったのです。だから私はその家系の相続人として、リスクがあっても声を上げることが私の責任だと思うのです」。(記事リンク [Not Welcome: Jewish & Palestinian Activist Protest Netanyahu's Address to Congress, 400 Arrested](#))

ネタニアフはイスラエル市民を代表する人物ではない イスラエルの元大統領らがニューヨークタイムズに投稿

「デモクラシィ・ナウ」は別の配信記事（7月24日配信）で、ニューヨークタイムズにイスラエルの元大統領や、情報機関モサドの元長官ら著名人が連名で小論を公表したことを紹介。

同小論の共同執筆者でイスラエル科学・人文科学アカデミー議長のデビッド・ハレル教授は「デモクラシィ・ナウ」のインターネットインタビューに答えて以下のように語っている。

「アメリカ議会がネタニアフを招いたのは深刻な過ちです。第一に、彼はイスラエルの多数派を代表しているのではない。極右を含む連立政権で権力にしがみついている。多くのイスラエル人は、彼らがイスラエルの国を失うまで転落させると感じている。これは単なる危機ではない。単に不幸なことが起きているのではない。

私たちの国の存在、私たちが何10年も力を注いで支えてきたこの国の存在が崩壊してしまう深刻な危機にさらされていると感じている」。

人質解放、即時停戦、選挙の実施が最低限求められる

デビッド・ハレル教授はネタニアフをアメリカ議会が招くには最低限以下の3条件が前提となると強調する。

「第1に人質となっている120人を家に帰すこと。その道は6ヶ月前、7ヶ月前、8ヶ月前にもあった。今もその道はある。それをネタニアフは常に後回しにしている。第2は、ガザでの戦争を止めること。私たちはイスラエルにいて軍隊の兵士が殺されているニュースをほとんど毎日与えられている。ガザ地区で亡くなっている市民の数字は言うまでもない。この戦争ははるか以前に停止されるべきだったのだ。第3は、選挙を行うべきだ。現在、60%、70%の多数のイスラエル市民が選挙を求めている。以上の三つのことが実行されるなら、ネタニアフを招待することを理解できる」。

そして教授は、人質となっている人の父親の言葉「ネタニアフが、アメリカの議会で演説する唯一の目的は支持を勝ち取り、そのことで、イスラエルにおける支持基盤を強化することだ」とを引用して、指摘する。

「イスラエルにおけるネタニアフ首相の支持基盤を強化することは、戦争を長引かせ人質の解放を遅らせる。その人質の中にはアメリカの市民も含まれている。従って、いずれの場合においてもこれは単なる笑劇や政治的舞台ではなく、状況を改善するのではなく非常に悪い結果をもたらすことになる」と。

(記事リンク ["Terrible Mistake": Leading Israelis Say Netanyahu's Invite to Address Congress Rewards Bad behavior](#))

「記事リンク」をクリックすると「デモクラシィ・ナウ」の記事本文（英文テキストと動画）が表示されます。文責 金融・労働研究ネットワーク 田中均